

反重力制御理論

フォールド航行（ワープ航法）理論

タイムマシン理論

0. 反重力と重力の仕組み

球の表面積は、

$$S = 4 \pi r^2$$
$$= 2 \pi r \times 2 r$$

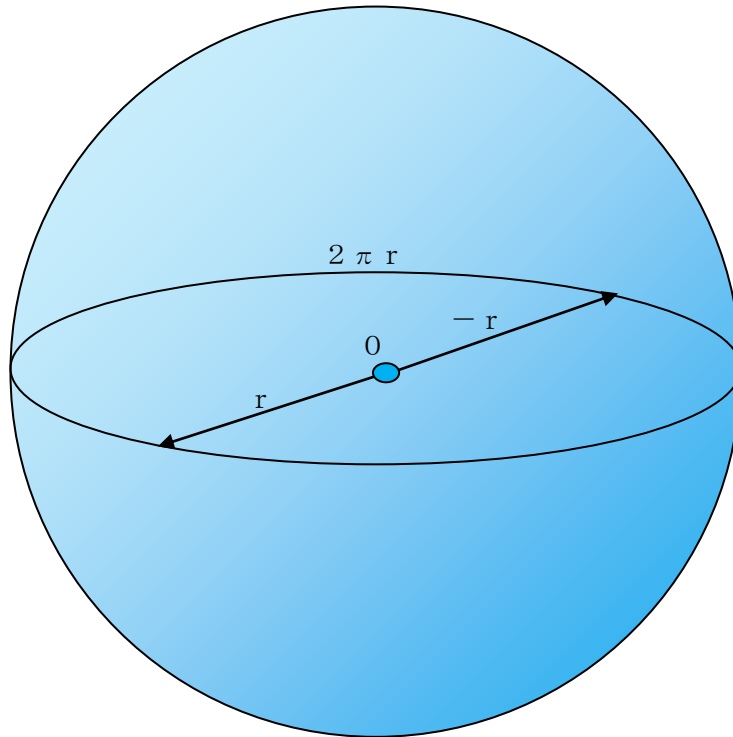


図0. 1 円運動による球面積

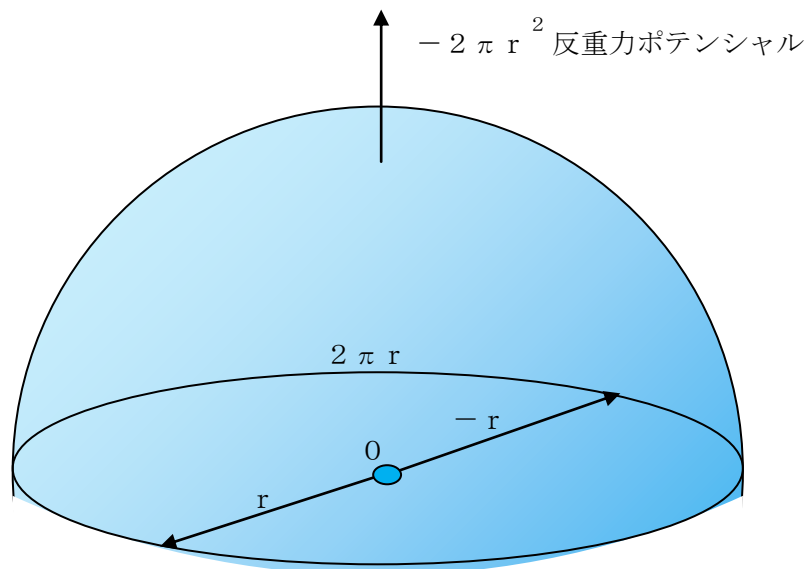


図0. 2 反重力ポテンシャル

より、図0. 1における原点0を中心とした r と $-r$ の円運動が球の面積をつくり、球の球面運動を構成する。

そして、図0. 2における反重力ポテンシャル $-2\pi r^2$ を $-r$ の円運動は生む。

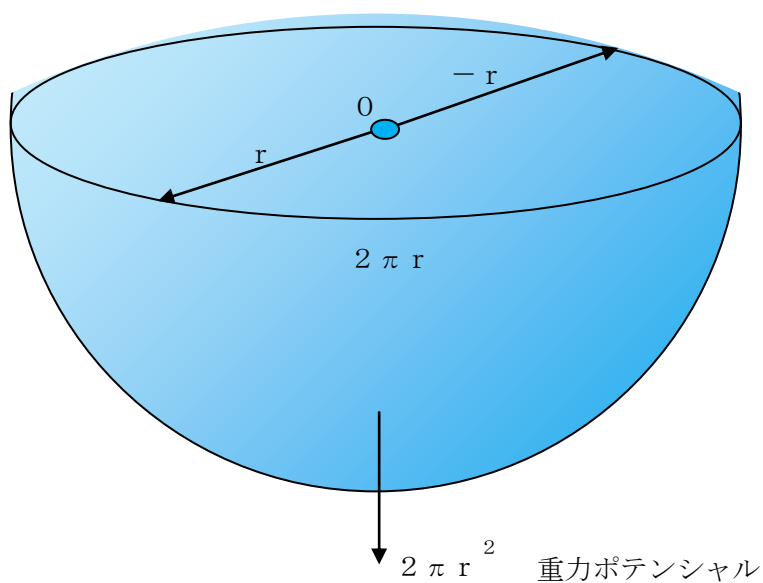


図0. 3 重力ポテンシャル

そしてまた、図0. 3における重力ポテンシャル $2\pi r^2$ を r の円運動は生む。

ここで、 $2\pi r^2$ の面積はエネルギーを示している。

1. 物質化の条件式

それでは、先の項で述べた重力と反重力を生じるための条件式は、拙著共振回路型制御核融合理論より、

$$\text{速度} \quad v = \frac{\pi}{2} c \quad [\text{m/s}] \quad \cdots (1 \cdot 1)$$

となる。

(c は光速度 [m/s])

この速度 v [m/s] でポテンシャルの円運動を設ければ図0. 3、図0. 2のような重力と反重力を設けることができる。

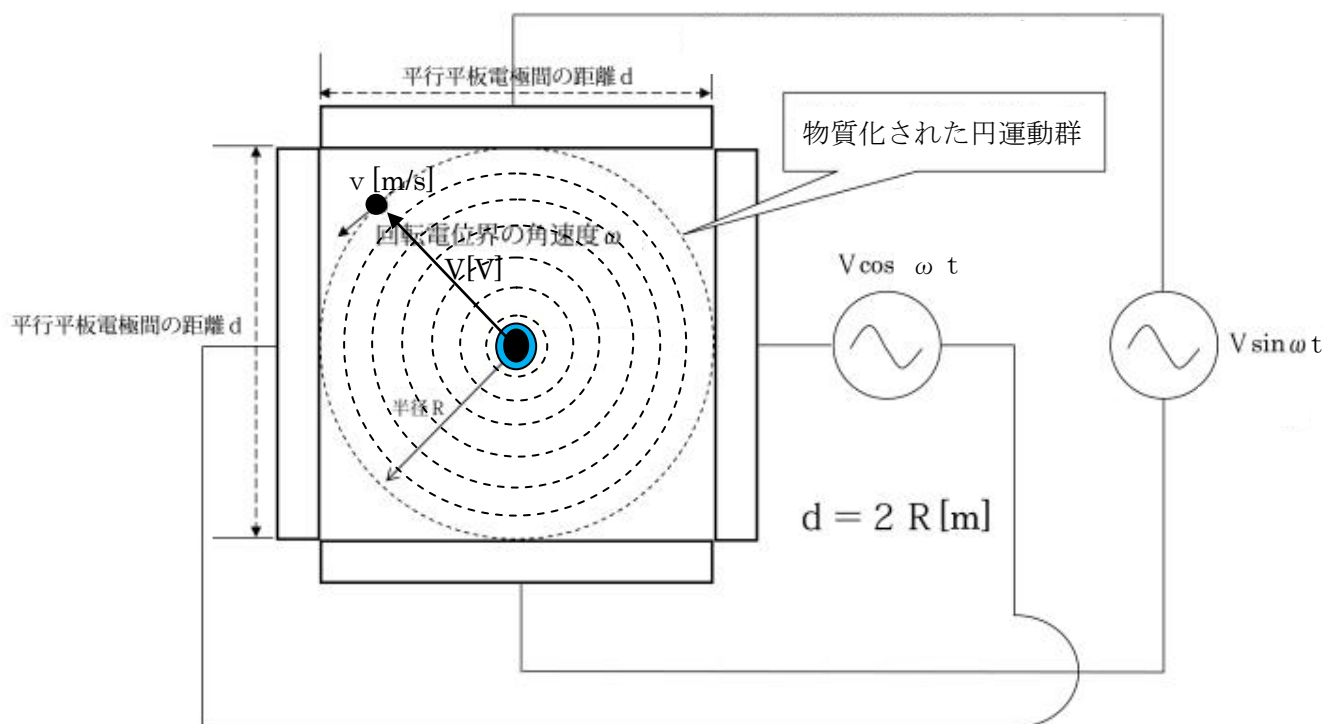



図1・1 物質化の実現回路図

図1・1のような回路でポテンシャルの円運動を実現できる。図中の原点0の  の方向が重力方向になるか反重力方向になるかは実験してみないと分からない。回転方向次第で重力と反重力の方向は反転する。

またこの装置を水平方向に用いれば前後左右の移動が可能である。つまり、推進装置として用いることができる。

2. 考察

生成した反重力によりプラス・マイナス、質量ゼロの空間を作れば、その空間の推進力で瞬時移動・テレポテーションが可能であり、亜空間へ突入することができる。

また、わずかにマイナスの質量で、その空間をテレポテーションすれば過去空間へのタイムトラベルも可能である。

また反対に、わずかにプラスの質量で、その空間をテレポテーションすれば、未来空間への移動も可能になる。

3. 著作権

本論文のすべての著作権は、**laboratory-sukima.net** (佐藤 康弘) に帰属します。

2019/02/24 12:00 作成
2019/02/25 21:00 訂正
2019/07/17 17:45 追記
2019/10/03 04:11 訂正

Copyright © 2019 laboratory-sukima.net All Rights Reserved.